

Topic 62

米国ジョージア、テネシー、ミシシッピ&アラバマ州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) 4州の自主浄化プログラム (VCP : Voluntary Cleanup Program)

お疲れ様です。環境メルマ月曜版の佐藤です。
今週は米国4州をサッと駆け巡りますが、その前にちょっとお知らせです。

「サステナ」というフリーペーパーご存知ですか。これは「サステイナビリティ学連携研究機構」という（ちょっと難しそうな名前の…）組織が発行している季刊誌です。環境メルマはつい最近この「サステナ」に出会いました。読んでみたらおもしろかったのでご紹介させていただきます。持続可能性ってなんだろね？といったことに興味がある方、以下のウェブサイトからPDF版季刊誌をダウンロードできますのでどうぞ～。

<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/sustaina01.html>

1) こんなところです

今週ご紹介する4つの州は米国南部あるいは南東部に位置しています。こんな風にまとめてみました。

[米国加入年／総人口／人口密度／州都／州最大都市]

ジョージア州：

1788年1月2日（4番目）／約870万人／約56人/k²／アトランタ／アトランタ

アトランタは米国の象徴ともいわれるようになったコカコーラの発祥の地。小説「風と共に去りぬ」の舞台としても知られています。もう一つ、ここはノーベル平和賞を受賞したマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの出身地です。米国では1月の第3週の月曜日は彼の栄誉をたたえて祝日になっています。

テネシー州：

1796年6月1日（16番目）／約590万人／約54人/k²／ナッシュビル／メンフィス

ナッシュビルやメンフィスはカントリー、ブルース、ロックなどアメリカの音楽のまち。エルビス・プレスリーが愛したまちです。メンフィスにある彼の邸宅は米国の史跡に登録されています。

ミシシッピ州：

1817年12月10日（20番目）／約290万人／約23人/k²／ジャクソン／ジャクソン

州名「ミシシッピ」とはアメリカ原住民オジヴェ族（あるいはその関連言語）で「偉大な川（Great River）」という意味だそうです。ミネソタ州からメキシコ湾へと流れるこの川は、世界三大河川の1つ。アメリカの歴史を刻々と刻み続けている偉大な川なのですね。

アラバマ州：

1819年12月14日（22番目）／約450万人／約33人/k²／モンゴメリー／バーミングハム
ここはとにかく夏暑いそうです。行って見たことありませんが、そんな風にいつているのをよく耳にします。アラバマといえばピューリツァー賞を受賞した「アラバマ物語（モノマネドリを殺すには）」の作者はハーパーリー女史の故郷。それから五輪で多くの金メダルを獲得したカールルイス選手もアラバマ出身です。

2) 4州の自主浄化プログラム (VCP : Voluntary Cleanup Program)

ご紹介する4つの州は、ブラウンフィールドに関してそれほどダイナミックな展開はないようです。とはいえ、各州でVCPやブラウンフィールドプログラムを運営しています。2004年時点でのプログラム運営の成果を比較してみましょう。

(州名：プログラム登録中サイト数／プログラム実施完了サイト数)

ジョージア州：16/19

テネシー州：103/50

ミシシッピ州：206/34

アラバマ州：198/?

このうち、アラバマ州とテネシー州にはドライクリーニングのプログラムが存在しています。テネシー州の報告によると、州の全ドライクリーニング操業サイトの約80%が汚染されていると評価されています。汚染の程度はまちまちだろうとおもいますがすごい割合ですよ。日本の現状はどうなのでしょう。

来週は、コロラド州のブラウンフィールドを見てみます。よかったら「サステナ」見てみてくださいね。

Thanks God It' s the beginning of another lovely week!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname -▼ジョージア州：「Empire State of the South (南部の中心)」「The Peach State (桃がとれる)」「The Goober State (ピーナッツもとれる)」・・・イメージわかりますか？▼テネシー州：「The Volunteer State (1812年の米英戦争で、志願兵を募る呼びかけに数千人が応じ、活躍した)」「The Big Bend State (テネシー川のことをNative AmericanはBig Bendと呼ぶそうです) ▼ミシシッピ州：「The Magnolia State (州の木はモクレン)」「The Eagle State (空には鷲がいる)」「The Mud-cat State (川にはなまずがいる)」 ▼アラバマ州：「The Cotton State (アメリカ東南部のコットンベルトは、東はノースカロライナから西はテキサス東部、北はミズーリ、ケンタッキーまで広がっており、アラバマ州はその中ほどに位置します。Cotton Stateだけでは他の州と区別できないので、The Heart of Dixie というNickname も使っているそうです)

事例紹介 -Atlanta (アトランタ)：「風と共に去りぬ」の作者マーガレットミッチェルの家がアトランタ市内にあります。そこから徒歩で20分くらい北西方向に行くと、かつてはアトランティックスチールという製鉄所があった55万㎡ほどの土地があり、そこで大規模な再開発事業が行われています。(以下のリンクで矢印のあるところがマーガレットミッチェルの家です。その左上あたりで地面の色が見えているところで再開発が行われています。

<http://www.google.co.jp/maps?f=q&hl=ja&q=990+Peachtree+Street,+Atlanta+GA&ie=UTF8&z=14&ll=33.789349,-84.393625&spn=0.03317,0.086002&t=k&om=1>

事業費20億ドル(≒2400億円)を超えるこのプロジェクトは、以下の点で環境先取的な取り組みを行っているといえます。

1) ブラウンフィールドでの再開発である：環境当局とその意図を理解した開発事業者が、油や重金属による土壌・地下水汚染が周辺に広がらないような方策を施し、一方、埋立て廃棄物はダンプトラックで運び出して、RCRA(資源保全回収法)による有害物質の規制を解除しました。州からは2001年にNo Further Action Letterを得ています。

2) 大気汚染低減に寄与している：アトランタは大気汚染問題で悩んできた都市です。この再開発では、敷地全体をたくみにゾーニングし、住むところと働くところを無料のトラムで結び、また、自転車や徒歩で容易に移動できるような工夫をこらしています。

3) 100%グリーンビルディング：アメリカには、エネルギー効率がよく、リサイクル材料をできるだけ使い、かつ室内環境にも配慮した建物の評価を行うLEED認証プログラムがあります。再開発事業が終わる2008年には、アメリカ国内で最も大規模なグリーンビル群が出来上がることとなります。

ちなみに、この再開発事業のために開発事業者が支払った土地代は79百万ドル(100億円弱)、土壌汚染や廃棄物の浄化対応に費やしたお金は10百万ドル(≒12億円)だったとのこと。製鉄所が納めていた税金は年間30万ドル、再開発が終わったあとに予想される税金はその100倍の3000万ドルであり、大きな経済波及効果が期待されています。また、将来の税金を見込んだ85百万ドル(100億円強)の起債は、浄化対応や道路などの整備に使われています。

このプロジェクトは、2004年にフェニックスアワードを受賞しました。

▼参考情報

- <http://www.atlanticstation.com/site.php> アトランティックステーションの計画図
- http://cepm.louisville.edu/Pubs_WPapers/practiceguides/PG9.pdf ルイスビル大学のテキスト (テキスト 11 ページをご覧ください)
- http://www.activelivingleadership.org/uploads/PDFs/rpt_NCSL_Brownfields_May2005.pdf